



2025年3月期第2四半期（中間期） 決算説明資料

2024.10.31

TIS株式会社

© 2024 TIS Inc.

- TISの河村でございます。よろしくお願いいたします。
- それでは、本日15:30に発表しました、2025年3月期第2四半期の決算の内容について、ご説明いたします。

2025年3月期第2四半期（累計）業績概要

- ・前年同期比増収減益の計画を上回り、増益で着地。
- ・営業利益率は主に大型案件のピークアウト影響を受けて、前年同期から低下も、計画に沿った水準。
- ・受注高・受注残高は前年同期比増加。
受注残高は過去最高水準に積み上がる。

2025年3月期 業績見通し

- ・概ね想定に沿った進捗であることから、
通期業績予想の修正はなし。

- ・ はじめに、2ページをご覧ください。
- ・ 今回の決算のハイライトです。
- ・ まず、2025年3月期上期の業績については、前年同期比増収増益で、計画を上回って着地しました。特に減益計画に対して小幅でも増益で着地できたことは評価できるポイントだと考えています。
- ・ 営業利益率については、前年同期比で低下しましたが、主に大型案件のピークアウト影響を受けたためであり、計画に沿った水準です。
- ・ また、受注高・受注残高ともに前年同期比増加と堅調で、特に受注残高は過去最高水準に積みあがりました。
- ・ 以上3点から、通期計画の達成に向けて順調に折り返すことができたと考えています。
- ・ 次に、2025年3月期の業績見通しについては、概ね想定に沿った進捗であることから、通期業績予想の修正はありません。

2025年3月期第2四半期（累計）業績概要

2025年3月期 業績見通し

株主還元

中期経営計画（2024-2026）の進捗状況

参考資料

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、TISインテックグループ（TISおよびグループ会社）が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

・各四半期会計期間（3カ月）の数値は累計期間の差引により算出しています。

・各セグメントの売上高はセグメント間の売上高を含んだ数値です。（P.35、P.36除く）

(説明省略)

2025年3月期第2四半期（累計）業績概要

2025年3月期 業績見通し

株主還元

中期経営計画（2024-2026）の進捗状況

参考資料

（説明省略）

2025年3月期第2四半期（累計）業績ハイライト（前年同期比）



- 顧客のデジタル変革需要等のIT投資ニーズへの的確な対応を通じた事業拡大により、増収増益。
- 主に大型案件のピークアウトの影響により営業利益率は低下も想定線。

（百万円）	2024年3月期 第2四半期 （累計）	2025年3月期 第2四半期 （累計）	前年同期比	
売上高	267,488	275,558	+8,069	(+3.0%)
営業利益	30,387	30,509	+121	(+0.4%)
営業利益率	11.4%	11.1%	▲0.3P	—
親会社株主に帰属する 中間純利益	20,307	20,840	+533	(+2.6%)
中間純利益率	7.6%	7.6%	▲0.0P	—

- ・営業外収益：1,471百万円（前年同期比 ▲295百万円）
→受取配当金 620百万円
持分法による投資利益 352百万円 等
 - ・営業外費用： 681百万円（前年同期比 +363百万円）
→支払利息 215百万円 等
- ・特別利益： 4,558百万円（前年同期比 +3,424百万円）
→投資有価証券売却益 4,296百万円 等
 - ・特別損失： 3,770百万円（前年同期比 +2,207百万円）
→減損損失 2,432百万円
子会社株式評価損 861百万円 等

*：前期に実施した連結子会社化に伴う連結業績への影響は売上高27億円、営業利益2.1億円（のれん償却後）。

- それでは、5ページをご覧ください。2025年3月期上期の業績概要です。
- 大型案件のピークアウトがある中で、増収増益を実現することができました。
- 売上高は前年同期比3.0%増の2,755億円。
- 営業利益は前年同期比0.4%増の305億円となり、営業利益率は11.1%となりました。
- 親会社株主に帰属する中間純利益は前年同期比2.6%増の208億円となりました。なお、主な特別利益として政策保有株式縮減に伴う売却益を計上した一方で、主な特別損失として子会社ののれん等の減損損失を計上しました。

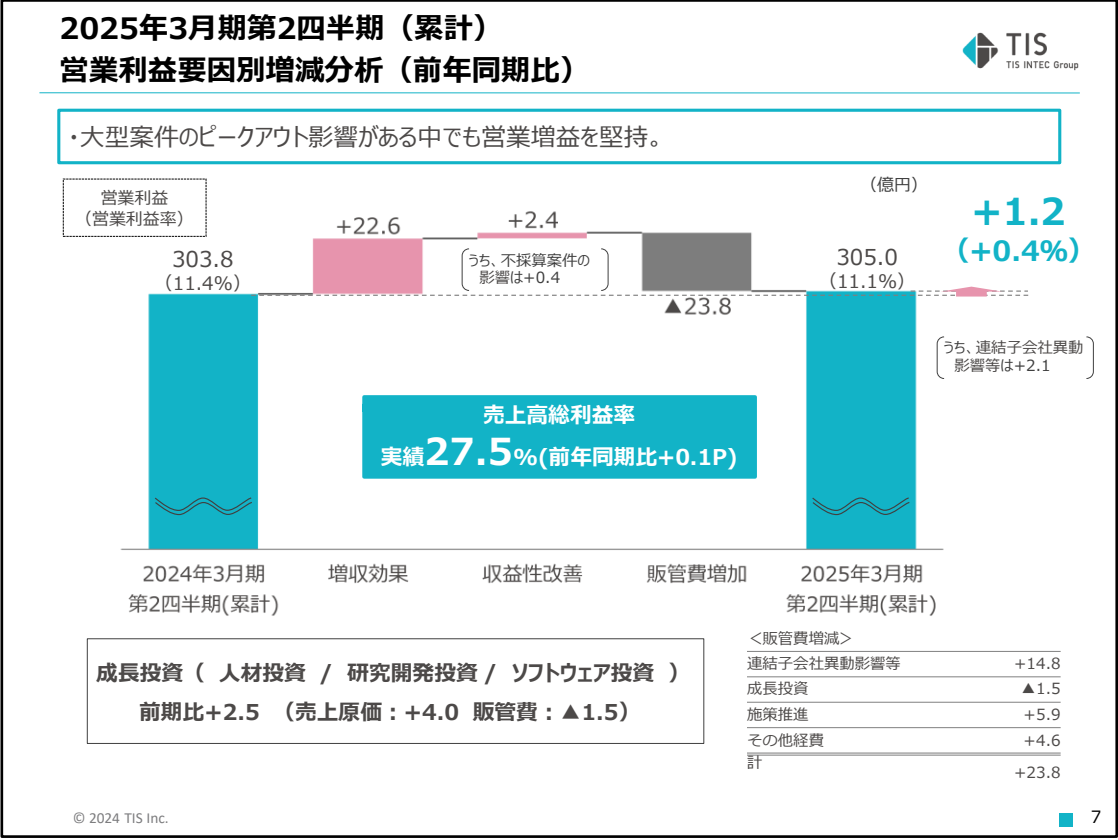
2025年3月期第2四半期（累計）業績ハイライト（計画比）



・幅広い顧客のIT投資需要の高まりを背景に計画を達成。

（百万円）	2025年3月期 第2四半期 （累計）計画	2025年3月期 第2四半期 （累計）実績	計画比	
売上高	270,000	275,558	+5,558	(+2.1%)
営業利益	30,000	30,509	+509	(+1.7%)
営業利益率	11.1%	11.1%	▲0.0P	－
親会社株主に帰属する 中間純利益	20,300	20,840	+540	(+2.7%)
中間純利益率	7.5%	7.6%	+0.1P	－

- ・ 続いて6ページは上期業績の計画比の状況です。
- ・ 計画を上回る着地となったのは幅広い顧客からのIT投資需要をしっかりと取り込むことができたからだと考えています。また、課題はありながらも減益計画を増益で着地できたことで今後も前向きな展開が見込めるのではないかと考えています。



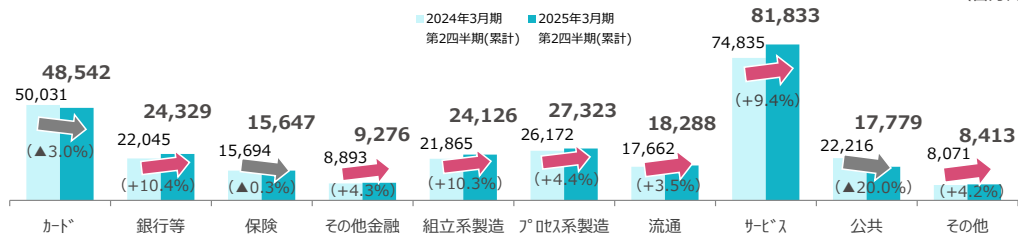
- 7ページは営業利益の要因別増減です。
- 大型案件のピークアウトによる影響がある中においても、増収に伴う増益分に加え、高付加価値ビジネスの提供、生産性向上施策の推進等により、営業増益で着地することができました。
- 売上高総利益率は、前年同期と同じく、不採算案件の影響を受けたこともあり、前年同期比0.1ポイント上昇の27.5%にとどまりました。
- なお、上期の不採算案件は前年同期から若干減の約13億円で、第2四半期としては、「オフファリングサービス」で5億円、「産業IT」で2億円の計7億円でした。
- 通期想定の10億円を上回る結果となり、大変申し訳ない思いですが、品質管理体制の強化や運用ルールの厳格化など品質向上施策をさらに徹底・強化する等、あらためてグループ全体で不採算案件の未然防止に注力してまいります。

2025年3月期第2四半期（累計） 顧客業種別売上高

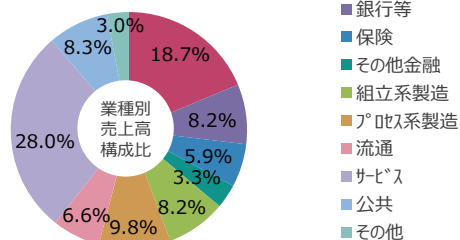


・全体的に好調なトレンドは継続。カード、公共の減少は共に大型案件のピークアウトが主因。

(百万円)

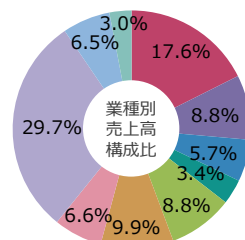


<2024年3月期第2四半期（累計）>



金融分野：36.1% 産業分野：52.6%
公共分野：8.3% その他：3.0%

<2025年3月期第2四半期（累計）>



金融分野：35.5% 産業分野：55.0%
公共分野：6.5% その他：3.0%

© 2024 TIS Inc.

8

- ・ 8ページをご覧ください。顧客業種別売上高の状況です。
- ・ これまでと変わらず、大型案件のピークアウト影響でマイナスとなった「カード」「公共」を除けば全体的に好調なトレンドが継続しました。
- ・ 中でも「銀行」「組立系製造」「サービス」が全体を牽引しました。

2025年3月期第2四半期（累計）
主要セグメント別損益状況（前年同期比）



(百万円)		2024年3月期 第2四半期 (累計)	2025年3月期 第2四半期 (累計)	前年同期比	
オフリングサービス	売上高	60,148	70,405	+10,256	(+17.1%)
	営業利益	2,659	4,468	+1,809	(+68.0%)
	営業利益率	4.4%	6.3%	+1.9P	—
BPM	売上高	20,994	20,848	▲145	(▲0.7%)
	営業利益	2,108	2,317	+209	(+9.9%)
	営業利益率	10.0%	11.1%	+1.1P	—
金融IT	売上高	54,106	50,041	▲4,064	(▲7.5%)
	営業利益	7,886	6,090	▲1,796	(▲22.8%)
	営業利益率	14.6%	12.2%	▲2.4P	—
産業IT	売上高	58,326	61,295	+2,969	(+5.1%)
	営業利益	8,470	9,022	+551	(+6.5%)
	営業利益率	14.5%	14.7%	+0.2P	—
広域ITソリューション	売上高	85,535	83,948	▲1,586	(▲1.9%)
	営業利益	9,013	8,300	▲713	(▲7.9%)
	営業利益率	10.5%	9.9%	▲0.6P	—

オフリングサービス : エンタープライズ系、基盤系、決済分野でのIT投資需要拡大等により、増収増益。海外事業も寄与。
 BPM : 一部既存のBPO業務の苦戦が継続し減収となる中、引き続きコストコントロールを実施し増益。
 金融IT : クレジットカード系の根幹先顧客および公共系金融機関の大型開発案件のピークアウト影響等により減収減益。
 産業IT : 製造系大型開発案件の反動減等があったもののサービス・製造・流通等の幅広い業種でのIT投資拡大に伴い増収増益。
 広域ITソリューション : 医療系販売案件の反動減に加え、一過性の費用計上等により減収減益。

© 2024 TIS Inc.

- ・ 9ページは、主要なセグメント別の状況です。
- ・ 「オフリングサービス」は、想定以上に力強い成長だったと考えています。
- ・ エンタープライズ系、基盤系、決済分野でのIT投資需要をしっかりと取り込めたことや日本ICSの業績貢献等により、増収増益となりました。海外事業も寄与しています。
- ・ 「BPM」は、一部既存のBPO業務の苦戦が継続し減収となりましたが、継続的に実施しているコストコントロールが奏功し増益となりました。
- ・ 「金融IT」は、クレジットカード系根幹先顧客や公共系金融機関の大型案件のピークアウト影響が想定通りに出たことから減収減益となりました。
- ・ 「産業IT」は、製造系大型開発案件の反動減等があったものの、サービス・製造・流通等の幅広い業種でのIT投資拡大により増収増益となりました。
- ・ 「広域ITソリューション」は、医療系販売案件の反動減に加え、第2四半期における一過性の費用計上等により減収減益となりました。

2025年3月期第2四半期（累計）
主要セグメント別損益状況（計画比）



（百万円）		2025年3月期 第2四半期 （累計） 計画	2025年3月期 第2四半期 （累計） 実績	計画比	
オフアリングサービス	売上高	68,600	70,405	+1,805	(+2.6%)
	営業利益	3,300	4,468	+1,168	(+35.4%)
	営業利益率	4.8%	6.3%	+1.5P	—
BPM	売上高	21,400	20,848	▲551	(▲2.6%)
	営業利益	2,100	2,317	+217	(+10.4%)
	営業利益率	9.8%	11.1%	+1.3P	—
金融IT	売上高	50,000	50,041	+41	(+0.1%)
	営業利益	6,000	6,090	+90	(+1.5%)
	営業利益率	12.0%	12.2%	+0.2P	—
産業IT	売上高	60,300	61,295	+995	(+1.7%)
	営業利益	9,200	9,022	▲177	(▲1.9%)
	営業利益率	15.3%	14.7%	▲0.6P	—
広域ITソリューション	売上高	82,000	83,948	+1,948	(+2.4%)
	営業利益	9,300	8,300	▲999	(▲10.7%)
	営業利益率	11.3%	9.9%	▲1.4P	—

オファリングサービス : 日本ICSの好調に加え、エンタープライズ系や基盤系の需要が想定を上回ったことにより売上高、利益ともに達成。
 BPM : 一部既存のBPO業務が想定以上に苦戦し、売上高は未達も、コストコントロールにより利益は達成。
 金融IT : 大型案件のピークアウトの影響を含めて全体的に想定通り進捗し、売上高・利益ともに計画線で着地。
 産業IT : 製造・サービス系顧客の需要が想定を上回り、売上高は達成も、不採算案件の影響等により利益は未達。
 広域ITソリューション : 生損保系顧客の需要が想定を上回り、売上高は達成も、一過性の費用計上や不採算影響等により利益は未達。

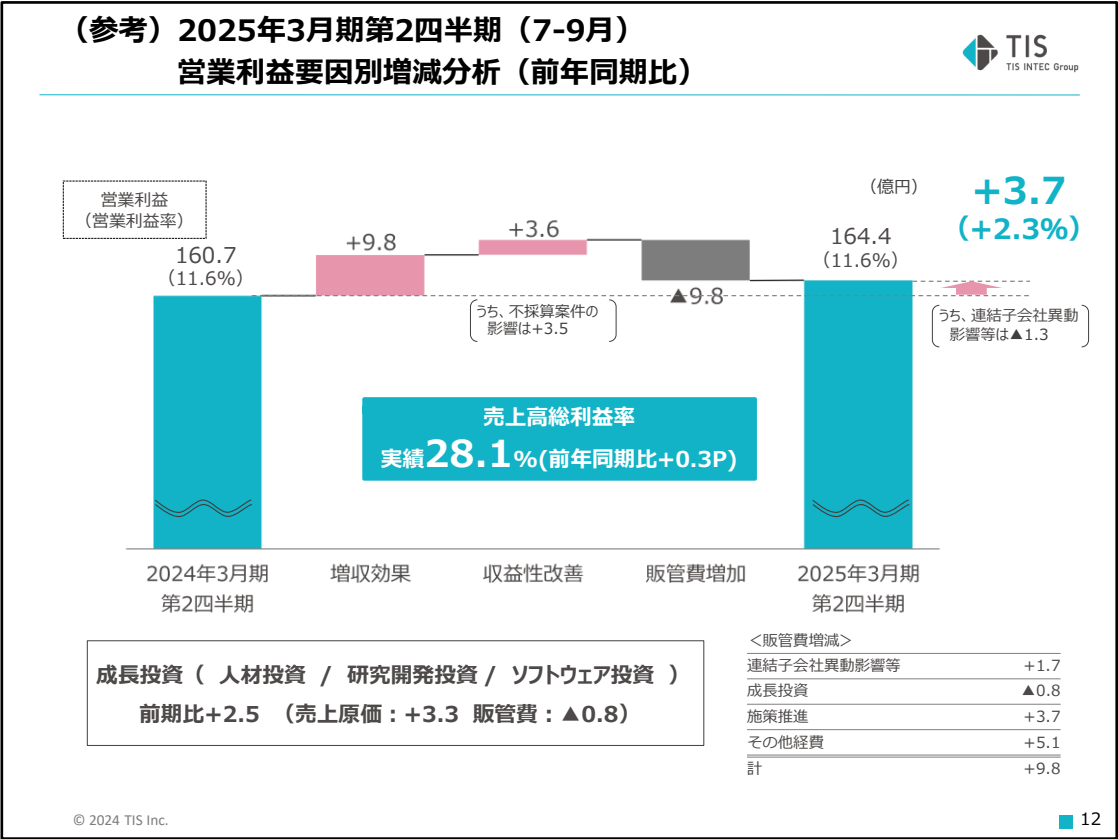
© 2024 TIS Inc.

10

- 続いて10ページは、上期業績の計画比です。
- ここでは、計画から大きく増減したセグメントについてご説明します。
- 「オフアリングサービス」は日本ICSの好調に加え、エンタープライズ系や基盤系の需要が想定を上回ったことにより売上高、利益ともに計画を上回りました。
- 「広域ITソリューション」では売上高は計画を上回った中、一過性の費用計上や不採算案件の影響もあり利益については計画未達となりました。

(参考) 2025年3月期第2四半期 (7-9月)					
業績ハイライト・主要セグメント別損益					
TIS TIS INTEC Group					
(百万円)		2024年3月期 第2四半期	2025年3月期 第2四半期	前年同期比	
売上高		138,059	141,503	+3,443	(+2.5%)
営業利益		16,076	16,447	+370	(+2.3%)
営業利益率		11.6%	11.6%	▲0.0P	－
親会社株主に帰属する四半期純利益		10,160	10,161	+1	(+0.0%)
四半期純利益率		7.4%	7.2%	▲0.2P	－
主要セグメント別					
オフアリング サービス	売上高	32,130	36,403	+4,273	(+13.3%)
	営業利益	1,502	2,262	+759	(+50.5%)
	営業利益率	4.7%	6.2%	+1.5P	－
BPM	売上高	10,693	10,840	+146	(+1.4%)
	営業利益	1,380	1,480	+100	(+7.3%)
	営業利益率	12.9%	13.7%	+0.8P	－
金融IT	売上高	27,369	25,066	▲2,302	(▲8.4%)
	営業利益	3,805	3,015	▲790	(▲20.8%)
	営業利益率	13.9%	12.0%	▲1.9P	－
産業IT	売上高	29,655	31,454	+1,799	(+6.1%)
	営業利益	4,077	4,662	+585	(+14.4%)
	営業利益率	13.7%	14.8%	+1.1P	－
広域IT ソリューション	売上高	43,751	42,888	▲863	(▲2.0%)
	営業利益	4,952	4,945	▲7	(▲0.1%)
	営業利益率	11.3%	11.5%	+0.2P	－
© 2024 TIS Inc.					

- 11ページから12ページは、第2四半期の3か月間の業績を示したものです。



(説明省略)

2025年3月期第2四半期（累計） 受注状況（当期受注高）



- ・受注高は産業ITやオフリングサービスが牽引し、前年同期比増加。
- ・金融ITの減少は大型案件のピークアウトによるもの。

(百万円)		2024年3月期 第2四半期 (累計)	2025年3月期 第2四半期 (累計)	前年同期比	
当期受注高		272,371	281,240	+8,869	(+3.3%)
うちソフトウェア開発		133,176	137,959	+4,782	(+3.6%)
主要セグメント別					
オフリング サービス	当期受注高	57,991	65,310	+7,318	(+12.6%)
	うちソフトウェア開発	23,846	25,213	+1,366	(+5.7%)
BPM	当期受注高	19,625	19,835	+210	(+1.1%)
	うちソフトウェア開発	6,099	6,244	+144	(+2.4%)
金融IT	当期受注高	49,717	45,985	▲3,732	(▲7.5%)
	うちソフトウェア開発	23,539	21,468	▲2,071	(▲8.8%)
産業IT	当期受注高	58,822	62,515	+3,692	(+6.3%)
	うちソフトウェア開発	37,153	41,734	+4,581	(+12.3%)
広域IT ソリューション	当期受注高	86,214	87,593	+1,379	(+1.6%)
	うちソフトウェア開発	42,537	43,298	+760	(+1.8%)

© 2024 TIS Inc.

13

- ・ 13ページからは受注状況についてのご説明です。
- ・ まず、受注高全体は「オフリングサービス」が牽引し、前年同期比3.3%増の2,812億円となりました。
- ・ 開発の受注高においては、「産業IT」が牽引しました。
- ・ また、「広域IT」の増加には自治体情報システム標準化関連の案件を第2四半期に受注したことも関係しています。
- ・ 「金融IT」の減少は大型案件のピークアウト等が影響しており、概ね想定に沿った結果ととらえています。

2025年3月期第2四半期（累計） 受注状況（期末受注残高）



・受注残高はオフリングサービスと広域ITソリューションが牽引し、過去最高に積み上がる。
・産業ITの減少は、特定の販売案件の反動によるもの。

(百万円)		2024年3月期 第2四半期 (累計)	2025年3月期 第2四半期 (累計)	前年同期比	
期末受注残高		187,533	195,631	+8,098	(+4.3%)
うちソフトウェア開発		97,863	99,974	+2,110	(+2.2%)
主要セグメント別					
オフリング サービス	期末受注残高	38,636	44,102	+5,466	(+14.1%)
	うちソフトウェア開発	16,208	16,736	+527	(+3.3%)
BPM	期末受注残高	7,127	7,548	+421	(+5.9%)
	うちソフトウェア開発	6,880	7,207	+327	(+4.8%)
金融IT	期末受注残高	45,168	42,564	▲2,603	(▲5.8%)
	うちソフトウェア開発	24,458	20,720	▲3,738	(▲15.3%)
産業IT	期末受注残高	38,814	38,528	▲286	(▲0.7%)
	うちソフトウェア開発	21,561	23,221	+1,660	(+7.7%)
広域IT ソリューション	期末受注残高	57,786	62,887	+5,100	(+8.8%)
	うちソフトウェア開発	28,753	32,088	+3,334	(+11.6%)

© 2024 TIS Inc.

14

- ・ 14ページは期末受注残高の状況です。
- ・ 受注残高全体についても前年同期比増加で、過去最高に積みあがりました。
- ・ 「産業IT」の減少は特定の販売案件の反動によるものです。
- ・ また、「広域ITソリューション」は開発を中心にしっかり積み上がりました。
- ・ そのほかのセグメントについては受注高の傾向と変わりありません。

(参考) 2025年3月期第2四半期（7-9月）受注状況				
TIS TIS INTEC Group				
(百万円)		2024年3月期 第2四半期	2025年3月期 第2四半期	前年同期比
当期受注高		182,835	189,849	+7,013 (+3.8%)
うちソフトウェア開発		74,106	75,834	+1,728 (+2.3%)
主要セグメント別				
オフアリング サービス	当期受注高	41,459	47,192	+5,733 (+13.8%)
	うちソフトウェア開発	13,215	12,984	▲230 (▲1.7%)
BPM	当期受注高	9,388	10,631	+1,243 (+13.2%)
	うちソフトウェア開発	2,574	3,566	+991 (+38.5%)
金融IT	当期受注高	37,294	35,051	▲2,243 (▲6.0%)
	うちソフトウェア開発	14,520	12,887	▲1,633 (▲11.2%)
産業IT	当期受注高	37,287	38,241	+953 (+2.6%)
	うちソフトウェア開発	19,723	21,035	+1,312 (+6.7%)
広域IT ソリューション	当期受注高	57,404	58,731	+1,326 (+2.3%)
	うちソフトウェア開発	24,072	25,360	+1,288 (+5.4%)
© 2024 TIS Inc.				
				15

- 15ページは第2四半期の3か月間の受注状況です。

2025年3月期第2四半期（累計）業績概要

2025年3月期 業績見通し

株主還元

中期経営計画（2024-2026）の進捗状況

参考資料

- 続きまして、2025年3月期の通期業績見通しについてご説明いたします。

・IT投資の長期的な拡大傾向の見方は継続。環境変化に注視は必要。

オフリングサービス

- ✓ キャッシュレス市場は成長継続。政策・環境・DX・インバウンド等で追い風が強まる。
- ✓ 金融×事業会社の取組みで多様なテーマ・サービスが乱立。
- ✓ ASEAN経済は政権不安あるも、底堅い内需を背景に、成長継続。
- ✓ クラウド・セキュリティ市場は成長継続。経営管理領域も継続的に活況。

BPM

- ✓ 人材不足や賃金上昇等の流れは変わらず、BPO市場の緩やかな成長は継続。
- ✓ データエントリー等の単純アウトソーシングはデジタル化進展で縮小・価格競争激化。
- ✓ 大手企業がM&Aも活用し、BPO市場へ、高付加価値サービスで参入。

金融IT

- ✓ 今後の政策金利上昇機運を背景とした競争力強化のためのIT投資が強まる見通し。
- ✓ キャッシュレス、クレジット利用率成長に伴い、決済市場は継続成長。
- ✓ キャッシュレス市場成長に伴い、新興プレイヤーとの競争激化。特に自社経済圏の囲い込みが激化、再編の動きも。
- ✓ 個別にはカード根幹顧客・公共系金融顧客の大型案件はピークアウト。

産業IT

- ✓ DX需要は継続、モダナイゼーション・ERP更改等も依然として力強く伸長継続。
- ✓ 外食、サービス等はコロナ後の業績復調も人員不足。IT投資と経営資源配分のバランスに注視。
- ✓ 原油価格高騰、為替変動、賃金・物価上昇圧力等の影響は製造業中心に要注視。

広域ITソリューション

- ✓ 自治体は2025年度末に向けたシステム標準化開始等によりIT投資本格化。
- ✓ 医療は、データ基盤構築・統合、ICT活用の進展等、IT投資ニーズは引き続き増加。
- ✓ メガバンク中心にIT投資強化が見込まれる。地銀は地域寡占型再編進む。

<これまで>



<これから>



- ・ まず17ページでは、事業環境の認識をご説明します。
- ・ IT投資の長期的な拡大傾向は継続という見方に変わりはありません。環境の変化には注視が必要ですが、今後も良好な事業環境であると期待しています。

2025年3月期 業績予想ハイライト

2024年5月8日発表
の計画値より変更なし



- ・大型案件の反動減の影響がある中、事業拡大により増収営業増益の計画。
- ・当期純利益の減少等は、前期に計上した営業外収益及び特別利益の反動減等が要因。

(百万円)	2024年3月期 実績	2025年3月期 計画	前期比	
売上高	549,004	555,000	+5,995	(+1.1%)
営業利益	64,568	66,500	+1,931	(+3.0%)
営業利益率	11.8%	12.0%	+0.2P	—
親会社株主に帰属する 当期純利益	48,873	44,800	▲4,073	(▲8.3%)
当期純利益率	8.9%	8.1%	▲0.8P	—
1株当たり当期純利益 (円)	203.28	192.55	▲10.73	(▲5.3%)
ROE (*1)	16.0%	13.9%	▲2.1P	—

*1：2025年3月期のROEは、試算値。

© 2024 TIS Inc.

18

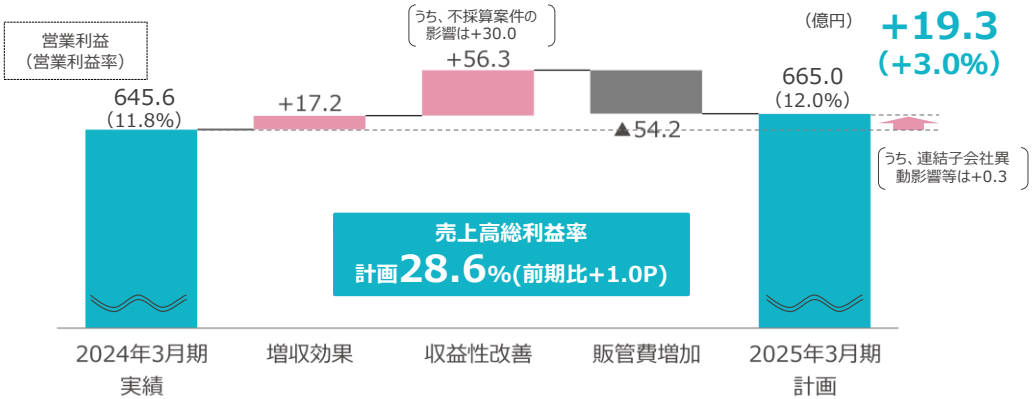
- ・ 18ページをご覧ください。2025年3月期の通期業績見通しです。
- ・ 今回、上期業績が概ね通期計画に沿った進捗であることから、現時点で期初計画からの変更はありません。
- ・ 売上高は前期比1.1%増の5,550億円、営業利益は前期比3.0%増の665億円の増収増益の計画です。
- ・ 引き続き、案件獲得・受注積み上げとともにグループ全体で品質管理を強力に推進し、計画の達成をより確かなものにしてまいります。
- ・ なお、不採算案件については上期の状況を踏まえて通期で18.3億円を新たな目標としています。

2025年3月期 営業利益要因別増減分析（予想）

2024年5月8日発表
の計画値より変更なし



・人材への投資をはじめとする積極的な成長投資を継続。高付加価値ビジネスの提供や生産性向上施策の推進等による利益増により、営業増益を見込む。



成長投資（人材投資 / 研究開発投資 / ソフトウェア投資）
前期比+6.0（売上原価：+3.0 販管費：+3.0）

<販管費増減>

連結子会社異動影響等	+15.8
成長投資	+3.0
施策推進	+18.6
その他経費	+16.8
計	+54.2

（説明省略）

2025年3月期 主要セグメント別損益状況（予想）

2024年5月8日発表
の計画値より変更なし



(百万円)		2024年3月期 実績	2025年3月期 計画	前期比	
オファリング サービス	売上高	130,759	140,800	+10,040	(+7.7%)
	営業利益	7,659	8,600	+940	(+12.3%)
	営業利益率	5.9%	6.1%	+0.2P	－
BPM	売上高	41,953	43,000	+1,046	(+2.5%)
	営業利益	4,551	4,500	▲51	(▲1.1%)
	営業利益率	10.8%	10.5%	▲0.3P	－
金融IT	売上高	106,304	98,500	▲7,804	(▲7.3%)
	営業利益	15,185	12,000	▲3,185	(▲21.0%)
	営業利益率	14.3%	12.2%	▲2.1P	－
産業IT	売上高	121,896	125,500	+3,603	(+3.0%)
	営業利益	18,287	19,600	+1,312	(+7.2%)
	営業利益率	15.0%	15.6%	+0.6P	－
広域IT ソリューション	売上高	172,376	171,000	▲1,376	(▲0.8%)
	営業利益	18,497	21,500	+3,002	(+16.2%)
	営業利益率	10.7%	12.6%	+1.9P	－

オファリングサービス	: 決済やその他幅広いサービスの拡大や海外事業の収益性改善により増収増益。
BPM	: データエントリー業務等からプロセス最適化等の注力領域へ事業ポートフォリオ転換推進も、過渡期により、増収減益。
金融IT	: 既存顧客での複数の大型案件の反動減の影響が大きく、減収減益。
産業IT	: 製造業やサービスを中心とした既存顧客の深耕やERP関連のIT投資需要の取り込みにより増収増益。
広域ITソリューション	: 前期の販売の反動減等により減収も、生産性向上や不採算案件抑制により増益。

© 2024 TIS Inc.

- 20ページは、セグメント別の業績予想の内容です。
- セグメント別にみると、通期計画に対する進捗にはばらつきがみられますが、全体の業績予想を据え置いたことで、セグメント別の業績予想についても据え置きとしました。
- 「オファリングサービス」は上期に引き続き、下期も好調に推移すると見込んでいます。
- 一方で、「広域ITソリューション」の通期計画はハードルが高いものとなりますが、これまで発生の続いた不採算案件を第2四半期で抑制できたことや、自治体情報システム標準化関連の受注が入ったことを追い風ととらえて、計画達成をあきらめることなく全力で取り組んでまいります。

2025年3月期第2四半期（累計）業績概要

2025年3月期 業績見通し

株主還元

中期経営計画（2024-2026）の進捗状況

参考資料

- 私からのご説明の最後として、株主還元についてご説明します。

- ・総還元性向50%（目安）に沿った株主還元を実施。
- ・当期の配当計画に変更なし。1株当たり中間配当金は34円（前期比+17円）。

中期経営計画（2024-2026）における株主還元の基本方針等

成長投資の推進・財務健全性の確保とのバランスをとりつつ、株主還元を強化。

総還元性向

50%*1

（45%から引上げ）

1株当たり配当

継続的な充実化

自己株式保有

5%程度を上限

	2024年3月期 実績			2025年3月期 計画
	(通常分)	(資本適正化分)	(合計)	
1株当たり中間配当金	17円 (前期比+2円)	—	17円	34円 (前期比+17円)
1株当たり年間配当金	56円 (前期比+6円)	—	56円	68円 (前期比+12円)
配当総額	133億円	—	133億円	159億円
配当性向（補正後*1）	27.5% (30.7%)	—	27.5%	35.3%
自己株式取得総額	約62億円	約224億円	約286億円	65億円 *2
総還元性向（補正後*1）	39.9% (44.9%)	—	85.8%	50.0%

■ 自己株式の取得 2024年5月から6月にかけて約65億円を取得済。

*1：営業活動から得られた利益（法人税等・非支配株主利益控除後）をもとに算出

*2：2024年5月8日発表の自己株式の取得内容による上限金額

© 2024 TIS Inc.

22

- ・ 22ページをご覧ください。
- ・ 期初に計画した株主還元から変更はなく、1株当たりの中間配当金は前期比17円増の34円です。また、自己株式の取得については5月から6月にかけて約65億円を取得済みです。
- ・ 今後も株主還元の基本方針に基づいて、成長投資の推進・財務健全性の確保とのバランスをとりつつ、事業成長に応じた株主還元を実施してまいります。
- ・ 以上で、私からの説明を終了させていただきます。

2025年3月期第2四半期（累計）業績概要

2025年3月期 業績見通し

株主還元

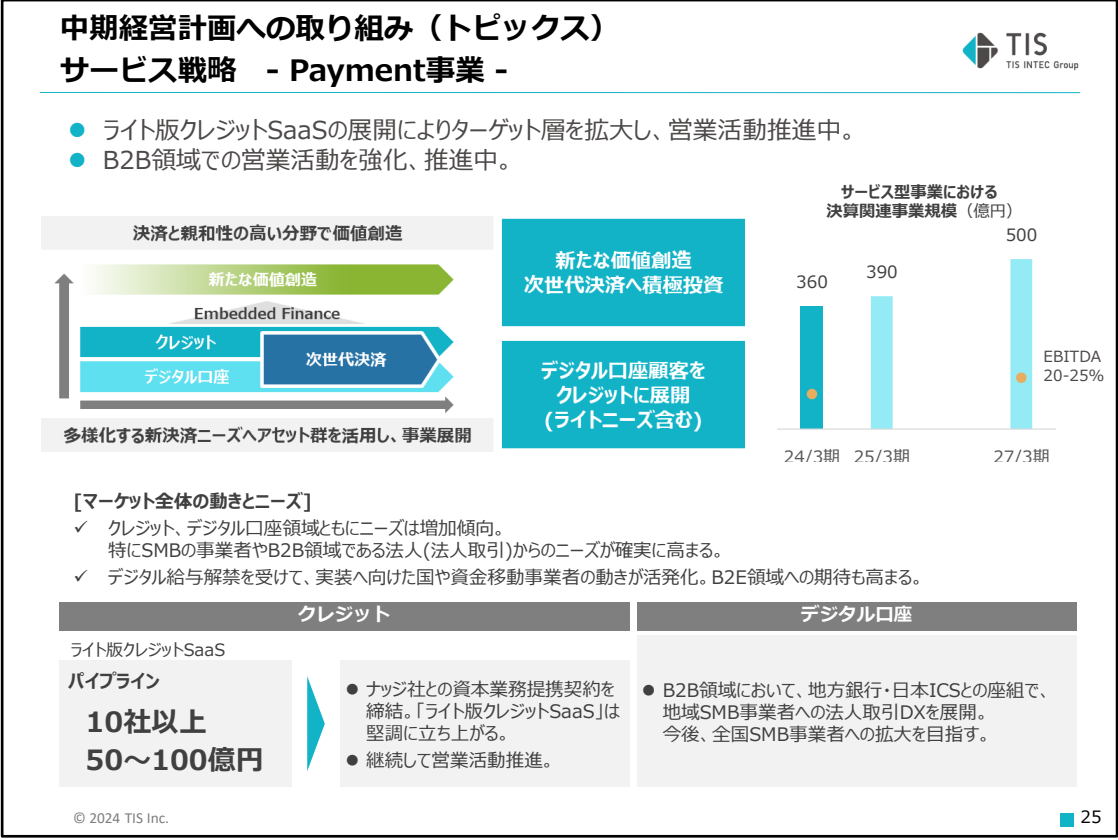
中期経営計画（2024-2026）の進捗状況

参考資料

- TIS 岡本です。あらためまして、本日は、当社決算説明会にご参加いただき、ありがとうございます。
- それでは、私の方から、中期経営計画の進捗状況について、ご説明させていただきます。

中期経営計画（2024-2026）の要旨					
基本方針	Frontiers 2026				
	フロンティア開拓を基本方針として掲げ、付加価値を伴った持続的成長をめざす 未来志向で市場開拓と事業領域の拡大を起点とした バリューチェーン全般の質的向上により、社会と顧客の変革を実現				
重要 経営指標	人材成長と付加価値 の循環	稼ぐ力の向上	資産(=知財) の価値創出	社会からの信頼 の獲得	価値ある成長
	PH営業利益 3.5百万円超	営業利益率 13.1% 調整後営業利益率13.4%※1	ROIC/ROE 13%超/16%超	売上高 6,200億円	EPS CAGR 10%超
基本戦略	市場戦略				
	● 社会課題と自社の強みを踏まえて定義した成長領域に対して経営資源を集中投下 ● 事業の高付加価値化とテクノロジー投資強化の両輪でASEAN中心にスピード感を持ってビジネスを拡大				
	サービス戦略	テクノロジー戦略	知財戦略	人材戦略	
	● 上流～業務アウトソーシングまでサービスのフルバリューチェーン化 ● 4つの社会課題※2をターゲットとしたビューサービス※3の拡充	● ナレッジ流通とITアーキテクトの育成と再配置の仕組みを進化 ● AI×自動化によるプロセス再開発	● 付加価値の向上と事業規模拡大の両立のため、一層の知財蓄積・利活用を推進 ● 顧客接点情報のフィードバック強化による知財創出の促進	● コンサルタント700名体制への増員とコンサルティング基礎スキル一般化による課題解決力強化 ● 先鋭人材の獲得・育成と人材の機動的再配置の仕組みを整備	
※1 調整後営業利益率：営業利益にのれんの償却費を足し戻した値をもとに算出 ※2 「金融包摂」「都市への集中・地方の衰退」「低・脱炭素化」「健康問題」の4つ。2050年の世界からのバックキャストを行い、当社グループとして解決に貢献すべき社会課題として選定 ※3 基本的に全ての顧客に画一的な仕様を提供するサービスの形態					
© 2024 TIS Inc.					

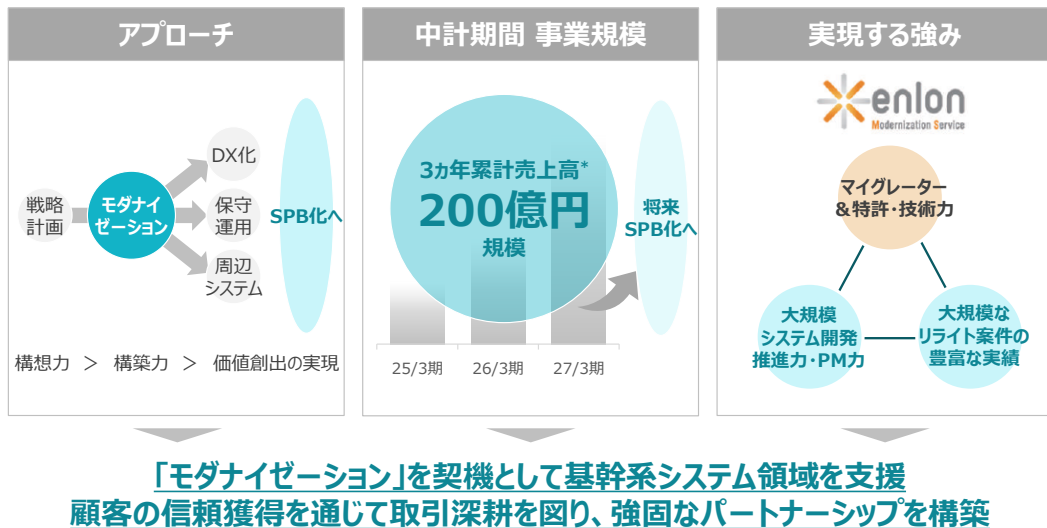
- まず24ページは、本年5月に発表した中期経営計画の基本方針と重要な経営指標を再掲しています。
- 5月にもご説明していますが、この3年間では、「フロンティア開拓」を基本方針として掲げ、付加価値を伴った持続的成長を目指すとともに、社会と顧客の変革をぜひとも実現させたいと考えていることをあらためてお伝えさせていただきます。
- 次のページから、今申し上げた中期経営計画について、いくつかの内容をトピックスとして取り上げ、それらの進捗状況をご紹介します。



中期経営計画への取り組み（トピックス） 市場戦略 - モダナイゼーション -



- ビジネス変革推進の要であるDX化を支える、IT環境のモダナイゼーションは活況が見込まれる。
- 産業IT・金融ITにおける成長ドライバーの一つと位置づけ、当社固有サービス“Xenlon”の活用による取り組みを推進。そして将来に向けたSPB創出、拡充を目指し挑戦。



© 2024 TIS Inc.

*当社Xenlonサービスを活用したモダナイゼーションサービス関連売上高

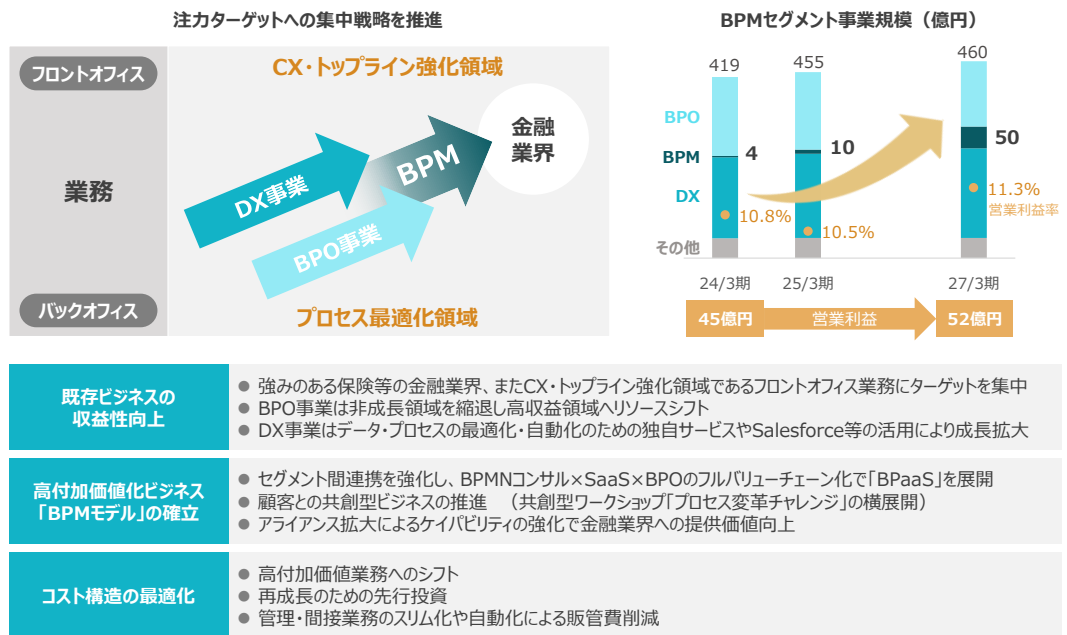
26

- ・ 26ページは市場戦略における、モダナイゼーション事業です。
- ・ レガシーシステムに対するモダナイゼーションの機運が、ここ数年で高まってきていることから、当社グループとしても今後の成長エンジンと位置付けて積極的に取り組むことにしています。
- ・ 我々の真の狙いはモダナイゼーションのご支援を通じて、お客様の信頼を獲得し、取引深耕を図ることで戦略ドメインである「ストラテジックパートナーシップビジネス」の拡大を目指すことにあるわけですが、そのためにもまずはこの3か年の累計で200億円規模のビジネスとなるよう事業を推進してまいりたいと考えています。
- ・ これまでの産業系での対応に加えて、金融系での取り組みを本格化すべく、この4月から専門組織を立ち上げましたし、独自のリライト技術を持つツールである「Xenlon」をはじめとした当社の強みを如何なく発揮することで、着実に進展できると期待しています。
- ・ なお、モダナイゼーション事業や「Xenlon」に関する詳細については12月3日夕方に「事業説明会」を開催してあらためてご説明する予定です。
- ・ 後日、正式な開催案内をお送りさせていただきますので、ぜひご参加いただければと存じます。

中期経営計画への取り組み（トピックス） 市場戦略 - BPMセグメントの変革に向けて-



- 構造改革を通じた筋肉質な企業体質への転換により、中計目標の確実な達成を目指す。

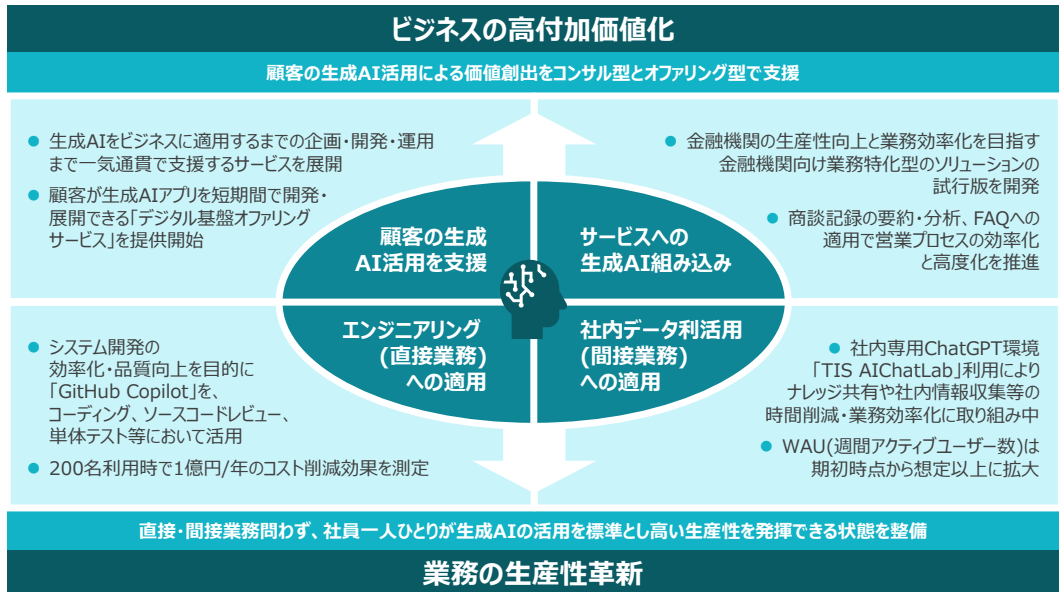


- 27ページはBPMセグメントの変革に向けてご説明いたします。
- BPMセグメントにおいても、既存の事業の延長線上ではなく、「フロンティア開拓」を基本方針とした構造改革を進める中で、「BPM」事業を新たな強みとして成長させていきたいと考えています。
- 「BPM」事業ではセグメント間の連携を強化し、コンサルティングからサービス、その後のBPOまでのフルバリューチェーン化や顧客との共創ビジネスの推進により高付加価値化ビジネスの確立を目指します。
- ターゲットとしては、強力な顧客基盤を持つ金融業界に注力し、この強みを活かして取り組みを推進していく想定です。
- さらに、コスト構造の最適化を推進し、再成長のための先行投資や間接業務のスリム化など筋肉質な企業体質への転換を目指してまいります。

中期経営計画への取り組み（トピックス） テクノロジー戦略 - 生成AIの活用 -



- 顧客向けビジネスと社内業務への生成AI活用を両面で幅広く推進。
- ビジネスの高付加価値化についての本格的な成果創出はこれから。



© 2024 TIS Inc.

28

- 28ページは生成AIの活用についてです。
- 生成AIの活用については、顧客向けビジネスの活用による高付加価値化と社内業務への活用による生産性向上の両面で幅広く推進しています。
- ビジネスの高付加価値化については本格的な成果創出はこれからですが、継続的に取り組みを推進してまいります。

中期経営計画への取り組み（トピックス） 経営高度化



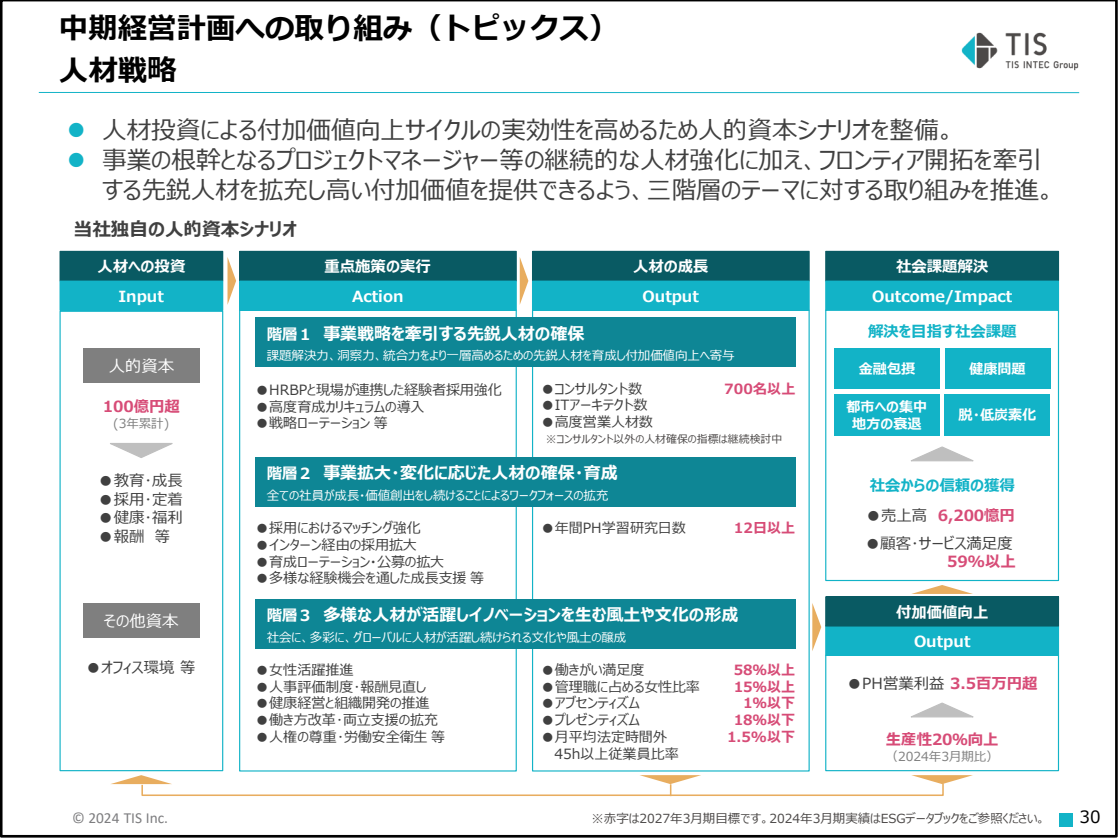
- マテリアリティテーマに沿って、ステークホルダーとの価値交換性の向上を継続的に追求。

マテリアリティテーマ		進捗計測の視点/方針 と 2025年3月期上期の主な実績
1	多様な人材が 生き生きと 活躍する社会を	従業員の能力の発揮 ● 高度営業人材育成のための教育プログラムの導入を開始 ● 戦略的人材ローテーションにより、コンサルティング人材の質・量的拡大を継続推進
2	イノベーション・ 共創を通じ、 社会に豊かさを	社会への価値提供 ● ナッジ社との資本業務提携による「ライト版クレジットカードプロセッシングサービス」を開始 ● 量子技術の最新動向を紹介する「TIS Quantum Day 2024」を業務提携先各社とともに開催
3	高品質な サービスを通じ、 社会に安心を	社会から求められる品質 ● 独自の品質マネジメントシステムの導入拡大と定着、リスク監理活動とモニタリングの強化 ● グループ全体で審査体制をさらに強化することで審査の質/量を継続的に引上げ ● 現場組織の風土改善やプロジェクトマネジメントの実践力強化を推進
4	コーポレート ガバナンスを 高め、 社会から信頼を	社会から選ばれる企業 ● 再生可能エネルギー導入の推進／オフサイト型コーポレートPPAを一部導入 ● 取締役会の実効性のさらなる向上に向けたモニタリング視点の強化等を推進

© 2024 TIS Inc.

29

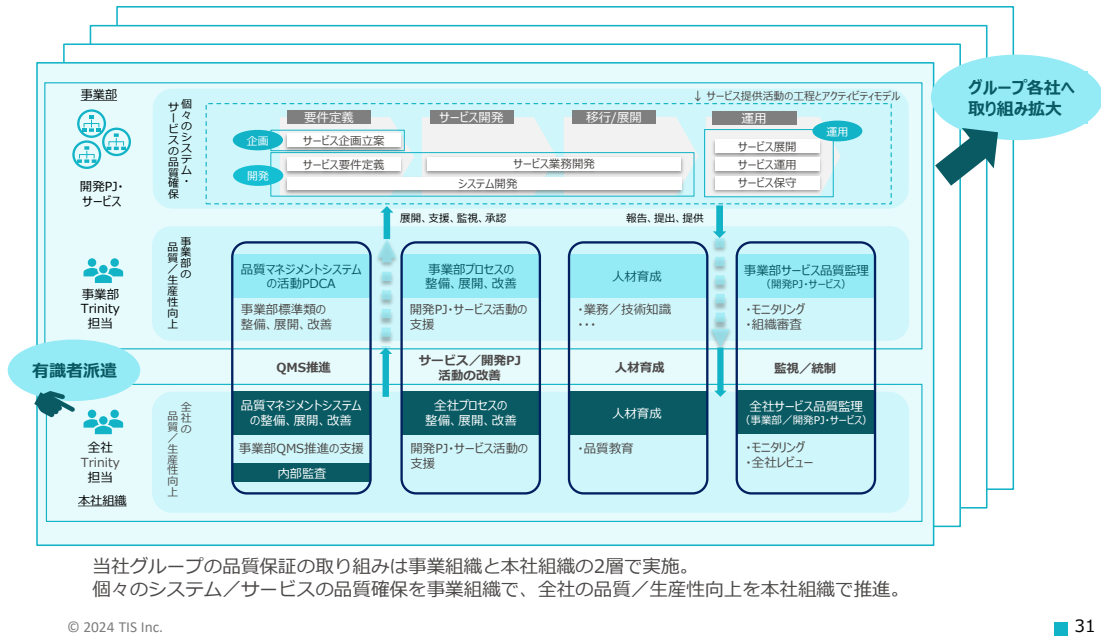
- 29ページは経営高度化として、マテリアリティテーマに沿った取り組みの進捗についてご説明します。
- サステナビリティ経営を推進する中で、持続的な価値の創出にはそれを支える基盤となるESGの取り組みが極めて重要だと考えています。
- これからも一つ一つ長期視点のもとで着実に進展させていき、持続的な企業価値向上と持続可能な社会への貢献の両立を目指してまいります。
- 4つのマテリアリティテーマのうち、1つ目に関係する人材と3つ目に関係する品質の取り組みについては、個別にご説明いたします。



中期経営計画への取り組み（トピックス） 品質/生産性向上の取り組み



- 不採算案件の発生状況を踏まえて、グループ全体で本社組織の品質監理体制の強化を継続的に推進中。下期からは「人材育成」や「監視/統制」の強化の観点からさらに有識者派遣を増員。



- 31ページは、品質/生産性向上の取り組みについてです。
- 前期に続いて、当期もすでに不採算案件が通期目標の10億円を超えて発生しており、大変残念な状況であると感じています。
- 不採算案件抑制のためには、プロジェクトにおけるリスクを正しく評価し、その対策を事前に策定し、徹底して対策することが重要で、従来より事業部と本社組織が一体となって品質向上の取り組みを推進しています。
- グループとしての仕組みの構築やグループ各社への展開は進んでいますが、グループ各社への指導・支援は継続して実施することで早期発見・拡大抑制につながると考えていますし、こうした取り組みは止めることなく継続することで高度化していかなければ意味がありません。
- そういった観点から、この下期も品質監理スキルの向上といった「人材育成」や、モニタリングの強化や運用ルールの徹底といった「監理/統制」の観点から各グループ会社へ有識者の派遣を増員し、リスク評価・対策の質を引き上げていく計画です。
- 新しいことへの挑戦を促進するうえでは、不採算案件をゼロにすることはできませんが、こうした取り組みを通じて、我々が掲げる年間10億円以内への抑制という目標は来期にはあらためて達成できると信じていますし、これからもそのための努力を惜しむつもりはありません。

中期経営計画への取り組み（トピックス） ブランド戦略



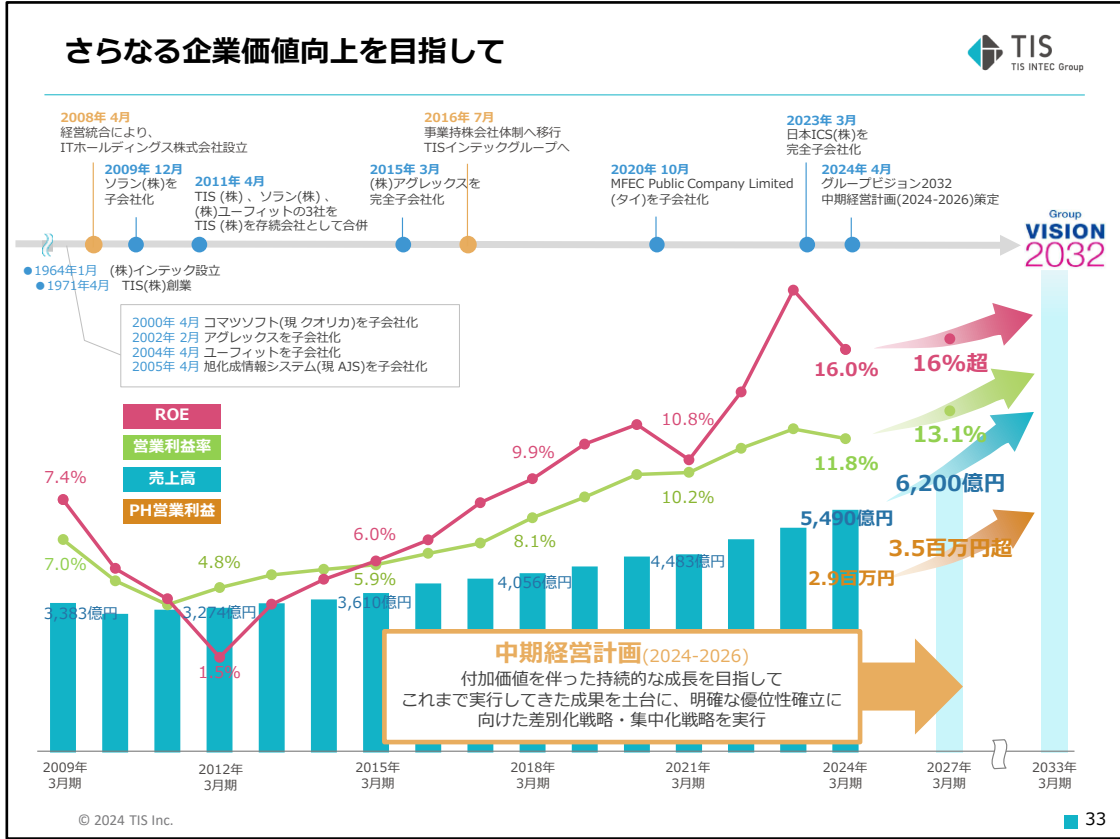
- あらゆるステークホルダーから選ばれる企業グループを目指し、引き続きブランド価値向上に注力



© 2024 TIS Inc.

32

- 32ページはブランド戦略です。
- これまで、「ITで、社会の願い叶えよう。」のブランドメッセージのもと、「知られる存在」となることを目的として施策を推進してきました。
- グループ認知度が70%に到達する等、テレビCM展開前と比較すると我々の認知度は大きく向上し、一定の成果が得られたと考えています。
- 8月より、新しいCMや広告を展開していますが、ここからは、「選ばれる存在」となることが目標です。
- すべてのステークホルダーからの共感を得ることができるよう、引き続きブランド価値向上に取り組んでいきたいと考えています。



- ・ 私からの説明の最後として、33ページです。
- ・ 中期経営計画(2024-2026)をスタートして最初の半年が過ぎました。中計初年度の当期がいろいろな課題を抱えながらスタートすることになることは期初にご説明したとおりです。
- ・ 特に近年の事業成長を牽引してきた金融系の大型開発案件がピークアウトする影響を大きく受ける当期は我々にとって試練の年度であり、そうした中でこの上期は減益計画としたわけですが、何とか増益で着地できたこと自体はよい結果であったと考えています。
- ・ しかしながら、不採算案件をはじめ、対処すべき課題が多い状況に変わりはありません。本日はその中のいくつかについてこれからの方向性や取り組みをお示しましたが、今後も新たに出てくるであろう新しい課題を含めて、その一つ一つに真摯に向き合い、丁寧かつ着実に対処していくことで足元をしっかりと固め、さらなる成長に向けた歩みを進めていきたいと考えています。
- ・ 前回も申し上げましたが、あらためて、我々には高い目標であっても全力で取り組んで達成するのだ、難しい局面を打破して成長を続けていくのだ、という強い意思があり、また我々にはそれをやり抜くだけの力があると考えていることに全く変わりはありません。
- ・ 今後も、「フロンティア開拓」という新中期経営計画の基本方針のもと、社員一人ひとりがそれぞれの立場において、さらに一歩前に進む開拓者になることで、フロントライン強化と構造転換を通じたグループの持続的な成長とさらなる企業価値向上を実現してまいりますので、ぜひご期待いただければと存じます。

- 以上で、私からの説明を終了します。

2025年3月期第2四半期（累計）業績概要

2025年3月期 業績見通し

株主還元

中期経営計画（2024-2026）の進捗状況

参考資料

（説明省略）

(参考) 2025年3月期第2四半期 (累計) 主要セグメント別売上高 (事業別) ※外部顧客向け				
TIS TIS INTEC Group				
(百万円)	2024年3月期 第2四半期 (累計)	2025年3月期 第2四半期 (累計)	前年同期比	
オファリングサービス	53,821	64,192	+10,371	(+19.3%)
ソフトウェア開発	21,527	24,825	+3,298	(+15.3%)
運用・クラウドサービス	18,341	21,099	+2,757	(+15.0%)
製品・ソフトウェア販売	13,952	18,267	+4,315	(+30.9%)
BPM	19,947	19,830	▲116	(▲0.6%)
ソフトウェア開発	6,667	6,295	▲371	(▲5.6%)
運用・クラウドサービス	12,730	12,766	+35	(+0.3%)
製品・ソフトウェア販売	548	767	+219	(+40.0%)
金融IT	53,348	49,374	▲3,974	(▲7.4%)
ソフトウェア開発	30,905	25,487	▲5,417	(▲17.5%)
運用・クラウドサービス	19,669	21,256	+1,586	(+8.1%)
製品・ソフトウェア販売	2,774	2,631	▲142	(▲5.1%)
産業IT	58,073	60,996	+2,923	(+5.0%)
ソフトウェア開発	38,286	41,578	+3,292	(+8.6%)
運用・クラウドサービス	13,389	12,280	▲1,108	(▲8.3%)
製品・ソフトウェア販売	6,397	7,137	+740	(+11.6%)
広域ITソリューション	81,288	79,995	▲1,293	(▲1.6%)
ソフトウェア開発	41,481	41,378	▲103	(▲0.2%)
運用・クラウドサービス	27,995	28,903	+908	(+3.2%)
製品・ソフトウェア販売	11,811	9,712	▲2,098	(▲17.8%)
© 2024 TIS Inc.				

(説明省略)

(参考) 2025年3月期第2四半期（7-9月） 主要セグメント別売上高（事業別）※外部顧客向け				
TIS TIS INTEC Group				
(百万円)	2024年3月期 第2四半期	2025年3月期 第2四半期	前年同期比	
オファリングサービス	28,893	33,241	+4,347	(+15.0%)
ソフトウェア開発	11,239	13,082	+1,843	(+16.4%)
運用・クラウドサービス	9,815	10,615	+800	(+8.2%)
製品・ソフトウェア販売	7,838	9,543	+1,704	(+21.7%)
BPM	10,148	10,307	+158	(+1.6%)
ソフトウェア開発	3,445	3,341	▲103	(▲3.0%)
運用・クラウドサービス	6,345	6,496	+150	(+2.4%)
製品・ソフトウェア販売	358	470	+111	(+31.1%)
金融IT	26,982	24,739	▲2,242	(▲8.3%)
ソフトウェア開発	15,568	13,067	▲2,501	(▲16.1%)
運用・クラウドサービス	10,034	10,443	+409	(+4.1%)
製品・ソフトウェア販売	1,378	1,229	▲149	(▲10.9%)
産業IT	29,532	31,254	+1,722	(+5.8%)
ソフトウェア開発	19,340	21,754	+2,413	(+12.5%)
運用・クラウドサービス	6,872	5,960	▲911	(▲13.3%)
製品・ソフトウェア販売	3,319	3,539	+220	(+6.6%)
広域ITソリューション	42,011	41,356	▲654	(▲1.6%)
ソフトウェア開発	21,417	21,472	+54	(+0.3%)
運用・クラウドサービス	14,073	14,484	+411	(+2.9%)
製品・ソフトウェア販売	6,519	5,398	▲1,121	(▲17.2%)
© 2024 TIS Inc.				

(説明省略)

2025年3月期下期
業績ハイライト・主要セグメント別損益（予想）



(百万円)		2024年3月期 下期	2025年3月期 下期	前年同期比	
売上高		281,515	279,441	▲2,074	(▲0.7%)
営業利益		34,181	35,990	+1,809	(+5.3%)
営業利益率		12.1%	12.9%	+0.8P	－
親会社株主に帰属する四半期純利益		28,566	23,959	▲4,607	(▲16.1%)
四半期純利益率		10.1%	8.6%	▲1.5P	－
主要セグメント別					
オフファリング サービス	売上高	70,611	70,394	▲216	(▲0.3%)
	営業利益	5,000	4,131	▲869	(▲17.4%)
	営業利益率	7.1%	5.9%	▲1.2P	－
BPM	売上高	20,958	22,151	+1,192	(+5.7%)
	営業利益	2,442	2,182	▲260	(▲10.6%)
	営業利益率	11.7%	9.9%	▲1.8P	－
金融IT	売上高	52,197	48,458	▲3,739	(▲7.2%)
	営業利益	7,298	5,909	▲1,388	(▲19.0%)
	営業利益率	14.0%	12.2%	▲1.8P	－
産業IT	売上高	63,569	64,204	+634	(+1.0%)
	営業利益	9,816	10,577	+760	(+7.7%)
	営業利益率	15.4%	16.5%	+1.1P	－
広域ITソリューション	売上高	86,840	87,051	+210	(+0.2%)
	営業利益	9,484	13,199	+3,715	(+39.2%)
	営業利益率	10.9%	15.2%	+4.3P	－

© 2024 TIS Inc.

下期計画＝通期計画－上期実績

(説明省略)

セグメント毎のビジネスモデル

オファリングサービス

定義

当社グループに蓄積した**ベストプラクティス**に基づくサービスを**自社投資**により構築し、**知識集約型ITサービス**を提供

[補足]オファリングサービス事業構成イメージ

その他

グローバル*

クラウド＆セキュリティ

エンタープライズ（デジタルマーケティング・経営管理）

ペイメント

*一部は他セグメントにも計上

BPM

定義

ビジネスプロセスに関する課題をIT技術、業務ノウハウ、人材などで**高度化・効率化・アウトソーシング**を実現・提供

産業IT

定義

金融以外の産業各分野に特化した専門的なビジネス・業務ノウハウをベースとして、**事業・IT戦略を共に検討・推進**し、事業推進を支援

金融IT

定義

金融業界に特化した専門的なビジネス・業務ノウハウをベースとして、**事業・IT戦略を共に検討・推進**し、事業推進を支援

広域ITソリューション

定義

ITのプロフェッショナルサービスを**地域や顧客サイトを含み、広範に提供**し、そのノウハウを**ソリューション**として蓄積・展開して、課題解決や事業推進を支援

© 2024 TIS Inc.

38

(説明省略)

- 長期の事業の方向性を踏まえて、社会課題解決と共創を軸にした事業の発展、ITのみに留まらないサービスの事業化を志向して、戦略ドメインを一部見直し

グループビジョン2032において再定義した戦略ドメイン

- ✓ 2017年のグループビジョン2026作成時より、今後10年でめざすグループの社会的役割、事業の在り方がより鮮明化したことから、注力する事業領域を具体化

新設：社会課題へのアプローチ強化

Social Innovation Service (SIS)

社会インパクト指標を掲げ、グループが直接的に社会課題解決を行う事業

新設：共創型ビジネスの促進

Co-Creation Business (CCB)

グループ単独ではなしえない領域において、グループと共創パートナーそれぞれが有する強みをかけ合わせ、新たな市場を創造する事業

有機的
連携/循環

拡張：BFSを含め定義を拡張

IT & Business Offering Service (IOS)

グループに蓄積した技術・ノウハウを活用し、特定業界・業務において業界ニーズに先回りした将来のデファクトスタンダードとなりうるサービスを提供する事業

Strategic Partnership Business (SPB)

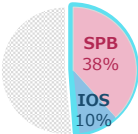
業界トップクラス企業に対し、ニーズに合わせた様々なリソースを戦略パートナーとして提供し、顧客の事業成長や企業変革を支援する事業

めざす戦略ドメインの構成

- ✓ SPB、IOSが大きく伸長、新設のCCBとSISも一定規模に育ち、多様なビジネスがバランスよく取り込まれた事業ポートフォリオを確立

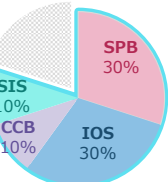
■ 2023年度実績

売上高に占める
戦略ドメイン比率
(新戦略ドメイン換算)
48%



■ 2032年度時点

売上高に占める
戦略ドメイン比率
80%



(説明省略)

2025年3月期第2四半期 プレスリリース/お知らせ①



発表日付	タイトル
2024年7月1日	TISおよび連結子会社の人事異動のお知らせ
2024年7月2日	化学メーカーのJNCが、インテックの「EDIアウトソーシングサービス（EINS/EDI-Hub Nex）」を採用
2024年7月3日	三菱自動車が、インテックの「EDIアウトソーシングサービス（EINS/EDI-Hub Nex）」を採用
2024年7月3日	TIS、三菱UFJニコスのカード審査業務のエンドツーエンドを高度自動化
2024年7月9日	インテック、「Oracle Cloud Infrastructureマネージドサービス」にOracle Cloud VMware Solutionの基盤運用の全面支援を追加
2024年7月9日	ネクスウェイ、「FNX e-受信FAXサービス」をインフォマートの「発注書AI-OCR（inbox）」と連携
2024年7月10日	TIS、大林組とウェルビーイングの取り組みで協業
2024年7月10日	マイクロメイツ、業務フロー作成の基礎知識を学習する「業務フロー作成基礎研修」の提供を開始
2024年7月11日	ネクスウェイ、薬剤師業務に必要な情報を収集・一元管理できる「アスヤク薬局ポータル」を提供開始
2024年7月11日	TISとインフォメティス、エコキュート最適制御に向けた中国電力の実証実験を支援
2024年7月22日	TIS、DTx/SaMDの設計・開発を行うSave Medicalへ出資
2024年7月25日	アグレックスとネクスウェイ、SMS送信から25種類より選べる決済手続までをシームレスに実現する「SMSマルチPay」を2025年1月に提供開始
2024年7月26日	TIS、君津市と協力してPHR1の普及を促進
2024年7月30日	TISと株式会社ピクシーミングが合併会社「ピクセルインテリジェンス株式会社」を設立
2024年7月31日	ネクスウェイ、金融教育スタートアップMEMEの学校向け集金決済サービス「スクペイ」の本人確認に「SMSLINK」を導入
2024年8月1日	TISおよび連結子会社の人事異動のお知らせ
2024年8月1日	TIS、クラウド型経費精算システム「Spendia」に請求書発行機能や全銀EDIシステム対応など17機能を追加
2024年8月1日	「Microsoft Top Partner Engineer Award 2024」に2名のTIS社員が選出
2024年8月2日	インテック、キャノンITソリューションズ、クオンティニウム、耐量子暗号証明書を利用したインターネットEDI接続検証を完了
2024年8月5日	TIS、マルチロボットプラットフォーム「RoboticBase」にロボットとセキュリティドア・ゲートの接続APIを追加
2024年8月7日	TISの量子コンピュータプログラミング「Qni(キューニ)」、産総研のGPUスバコンABCを用いたWebサービスの提供を開始
2024年8月9日	アグレックス、「姓名クリーニングサービス」で宇治市の改正戸籍法対応の実証実験を実施

(説明省略)

2025年3月期第2四半期 プレスリリース/お知らせ②



発表日付	タイトル
2024年8月15日	草薨剛さん・生見愛瑠さん出演！TISインテックグループ新テレビCM「その願い、ほっとけない。」篇が8月19日（月）より放映開始
2024年8月22日	インテックのスマートホームアプリ「UCHITAS（ウチタス）」、Android TV搭載テレビ向けに、宅外制御機能を拡大
2024年8月23日	TISの「キャリア支援AIサービス」とサイダスのタレントマネジメントシステム「CYDAS」が連携開始
2024年8月26日	クオリカの「TastyQube Growth」、「Real Qube」がモバイルオーダーサービス「ぐるなびFineOrder」と連携開始
2024年8月27日	TISとTECHFUND、「web3セキュリティ診断サービス」を提供開始
2024年8月27日	インテック、仕事と育児の両立をサポートする「育児社員ライフキャリア支援サービス」の事業性検証を開始
2024年8月28日	マイクロメイツ、生成AI活用クイックガイド「ここから始めよう！Microsoft Copilot 入門」の無料提供を開始
2024年8月30日	TIS、クラウド型経費精算システム「Spendia」に人事・給与・勤怠の各種申請に対応する従業員フロント機能を追加
2024年8月30日	日本ICS、「税理士360構想」の第三弾として、金融機関向け決算関係書類の電子データ提供サービスを開始
2024年9月2日	TISの人事異動、機構改革のお知らせ
2024年9月2日	九州先端科学技術研究所がオープンデータカタログサービス「BODIK ODCS」にTISの自治体向けフィードバック機能を採用
2024年9月4日	TIS、東京都の事業「Tokyo NEXT 5G Boosters Project」の開発プロモーターに選出
2024年9月4日	TIS、マルチロボットプラットフォーム「RoboticBase」にホテル向けロボット活用テンプレートを追加
2024年9月10日	TIS、ファッション関連パーソナライズサービス「NIAiNO」の「AI骨格診断サービス」をバルに導入
2024年9月11日	TIS、交通決済パッケージ「Acasia2.0」をインドネシアの28都市、15交通事業者を導入
2024年9月11日	「令和6年7月25日からの大雨災害」被害への支援について
2024年9月12日	TIS、AWSジャパンの生成AI実用化推進プログラムに参画
2024年9月13日	TIS、「Cato SASE Cloud導入・運用サービス」にActive Directoryセキュリティ強化メニューを追加
2024年9月13日	インテック、愛媛県のトライアングルエヒメ推進事業「デジタル実装加速化プロジェクト」に採択
2024年9月18日	TIS、プロバスケットボールB.LEAGUEとサポーターズカンパニー契約を締結
2024年9月18日	「ネクスウェイ本人確認サービス」、「LIFULL 不動産クラウドファンディング」のKYC業務ソリューションとして採用
2024年9月19日	発達特性を高度・先端IT領域で活かす「ニューロダイバーシティマネジメント研究会」を設立
2024年9月19日	世界初のホログラフィック通信プラットフォームを提供する米国PROTO社が、インテックをパートナーとして認定
2024年9月20日	TIS、東京都のスタートアップ支援事業「TIB CATAPULT」で鉄道会社6社と「TRIP (Tokyo Railway Innovation Partnership)」を創成

(説明省略)

発表日付	タイトル
2024年9月20日	TISと沖縄都市モノレールが参画する「沖縄MaaS」、那覇空港から宿泊先ホテルまでの手荷物配送サービスとゆいレール当日乗り放題乗車券とのセット券販売を開始
2024年9月24日	TISとSAKEX、「トークン活用型ブランディング支援サービス」で米鶴酒造の日本酒付き特別体験を販売するweb3実証実験を実施
2024年9月24日	偽造防止デジタルプラットフォーム「Akliteia」を美術品の真贋鑑定に活用開始
2024年9月25日	TIS、「Xenlon〜神龍 モダライゼーションサービス」でJR東海の基幹系メインフレームのオープン化を支援
2024年9月26日	TIS、住民の健康・医療情報をひとつのPHR基盤サービスで管理する「ヘルスケアパスポート」を宮崎県都農町で展開
2024年9月27日	TIS、「CTEM導入・運用支援サービス」の提供開始
2024年9月30日	インテックとスリーシェイク、クラウド事業領域で協業し、ユーザー企業のDXを推進
2024年9月30日	TIS、「デジタル基盤オフアリングサービス」を提供開始
2024年9月30日	マイクロメイツ、「工場業務診断 for NAVINECT」で製造現場のDX推進を支援

(説明省略)

ITで、社会の願い叶えよう。



<本資料の取り扱いに関して>

本資料は、著作権法及び不正競争防止法上の保護を受けております。資料の一部あるいは全部について、TIS株式会社から許諾を得ずに、複写、複製、転記、転載、改変、ノウハウの使用、営業秘密の開示等を行うことは禁じられております。本文記載の社名・製品名・ロゴは各社の商標または登録商標です。

(説明省略)